

志

九月四日第五十四連絡會議

「帝國國策遂行要領」ニ關スル件

出席者 内務大臣ヲ加フ

三自午前十一時至午後六時

三軍令部總長先ツ「帝國國策遂行要領」ノ提案理由ヲ説明ス其ノ要旨左ノ如シ

帝國ハ各般ノ方面ニ於テ特ニ物カ減リツツアリ、即チヤセツツアリ。之ニ反シ敵側ハ段々強クナリツツアリ。時ヲ經レハ愈々ヤセテ足腰立タス。又外交ニ依ツテヤルノヲ忍フ限リハ忍フカ適當ノ時機ニ見込ヲツケネハナラス。到底外交ノ見込ナキ時、戰ヲ避ケ得サル時ニナレハ早ク決意スルヲ要スル。今ナレハ戰

陸軍

勝ノ「チヤンス」アルコトヲ確信スルモ、此ノ機ハ時ト共ニナクナルヲ慮レル。戦争ニ就テハ海軍ハ長期短期二様ニ考ヘル。多分長期トナルト思フ。従ツテ長期ノ覚悟カ必要タ。敵カ速決ニ來ルコトハ希望スル所ニシテ、其ノ場合ハ我近海ニ於テ決戦ヲヤリ相當ノ勝算カアルト見込シテ居ル。而シ戦争ハソレテ終ルト思ハス、長期戦トナルヘシ。此ノ場合モ戦勝ノ成果ヲ利用シ長期戦ニ對應スルカ有利ト思フ。之ニ反シテ決戦ナク長期戦トナレハ苦痛タ。特ニ物資カ欠乏スルノテ之ヲ獲得セザレハ長期戦ハ成立セス。物資ヲ取ルコトト戰略要點ヲ取ルコトニ依リ、不敗ノ備ヲナスコトカ大切タ。敵ニ王手テ行ク手段ハナイ、而シ王手カナイトシテモ、國際情勢ノ變化ニ依リ取ルヘキ

手段ハアルダラウ

要スルニ國軍トシテハ非常ニ窮境ニ陥ラヌ立場ニ立ツコト、又開戦時機ヲ我方テ定メ先制ヲ占ムル外ナシ、之ニ依ツテ勇往邁進スル以外ニ手カナイ

其次テ參謀總長ヨリ左記説明アリ

十月下旬ヲ作戰準備完整ノ目途トナセルニ就テハ、今直ニ決心ヲシテモ動員、船舶ノ徵備、集中展開ナトヲヤレハ此ノ時機迄カカルノデアル

第三項ニ就テハ、十月上旬ニハ外交ノ目途ヲツケテ出來ナケレハ邁進シナケレハナラス、ズルズル引摺ラレテ行クノハ不可ナリ。其ノワケハ二月迄ハ北ハ大作戦ハ出來ヌ、北ノ爲ニハ南ノ

作戰ハ早クヤル必要アリ。今直ニヤツテモ明春初メ迄カカル、  
遅クナレハソレダケ北ニ應セラレス。故ニ成ルヘク早クヤル必  
要アリ

五、及川海相第三項ニ對シ左記修文意見ヲ提議ス

「十月上旬頃ニ至ルモ尙我要求ヲ貫徹シ得ル目途ナキ場合ハ自存  
自衛ノ爲最後の方策ヲ遂行ス」

之ニ對シテハ各種意見出テ結局不做底テアルト論議セラル。仍テ  
同海軍軍務局長左記修文案ヲ提議ス

「十月上旬頃ニ至ルモ尙我要求ヲ貫徹シ得ル目途ナキ場合ハ直ニ  
對米（英）開戦ヲ決意シ最後の方策ヲ遂行ス」  
之レモ輿論アリテ結局

「十月上旬頃ニ至ルモ尙我要求ヲ貫徹シ得ル目途ナキ場合ハ……  
以下原文通り」

ニ決定ス

尙此ノ間船、油、鐵等ニ就キ鈴木金堂院總裁、陸相、參謀總長等  
ノ間ニ論議アリ

六次ニ左ノ論議アリ

茶 近衛總理ト米大統領トノ會談中ニ泰ニ入ル機ナ事ハナキヤ  
參謀總長出來ルダケ其ノ機ナ事ハセス

又成ルヘク佛印ニハ兵ヲ出サヌ機ニシテ準備ハスルカ絶

對トハ行カス

陸相 軍需品ハ佛印ニ送ルカ

參謀總長 軍需品ハ送ル

陸 相 ソウスレハ企圖ハ分ルダラウ

參謀總長 ソレハ已ムナシ

岡局長 昆明ヲヤル風ハ出来ヌカ

參謀總長 悉クカクス事ハ出来ヌ

七 別紙約諾シ得ル限度ノ第四項ハ別個ノ事項トテ「附」トスルコトニ意見一致ス

又「一般國際理念ニ基ク」ハ近衛總理ノ主要ニ依リ之ヲ削除ス其ノ理由ハ防護自衛等ハ國際理念ニ基クモノニアラスシテ實力ニ依リ結局解釋セラルヘキモノナリ、例ヘハ滿洲事變ニ於ケル帝國ノ自衛權ノ發動ノ如シ、從ツテ之ハ寧ク削除スル方帝國ノ爲有利

陸 軍

ナリト云フニ在リ

八 尙「三國條約ニ對スル日本ノ解釋及實行ハ寧ラ自主的ニ行フ」ヲ

「……解釋及之ニ伴フ實行……」ト修文シ

又東條總相ハ右修文ハ帝國ノ三國條約ニ對スル義務遂行ニ關シ疑義ヲ生スルトテ「註」トシテ左記ヲ提議ス

「右ハ三國條約ニ基ク帝國ノ義務ヲ變更スルモノニアラス」

之ニ關シ總相、參謀總長強ク主張シ之ヲ挿入スルコトニ決定セリ以上ニテ金田閣議土曜御前會議ヲ開催スルコトニ決ス御前會議ニハ內相、藏相ヲ出席セシム